



2009年3月期第2四半期 決算説明会

株式会社 エヌアイデイ

2008年11月19日

■ はじめに

- ・ 会社概要、NIDグループ

1. 2009年3月期第2四半期業績について
2. 2009年3月期通期業績予想
3. 2009年3月期下期の重点施策
4. 事業戦略



- はじめに
 - ・ 会社概要、NIDグループ

社名	株式会社エヌアイデイ (英社名:Nippon Information Development Co.,Ltd)
本店営業所	新宿区西新宿7-6-4 TEL03-3365-2621
設立	1967年(昭和42年)5月
資本金	6億5,335万円(平成20年3月末現在)
事業内容	システム開発、情報処理サービス
社員数	931名、(NIDグループ:1,446名)(平成20年9月末現在)
発行済株式数	4,369,830株 (平成18年10月 2分割実施)
株主数	514名(平成20年9月末現在)
	2003年1月 JASDAQ上場(証券コード 2349) 2007年9月 社団法人日本経済団体連合会(経団連)入会

	所在地	資本金	売上高 (2008年3月期)	社員数	事業セグメント
(株)エヌアイデイ	東京都新宿区	6億53百万円	121億6百万円	931名	システム開発 情報処理サービス
連結子会社3社					
(株)NID・IS	千葉県船橋市	30百万円	31億59百万円	302名	システム開発 情報処理サービス
(株)NID東北	仙台市宮城野区	30百万円	8億44百万円	69名	システム開発
(株)NID・IE	東京都新宿区	10百万円	22億53百万円	144名	システム開発 情報処理サービス

(社員数: 2008年9月末現在)



NID・IE社



NID本社



NID・IS社



NID東北社

システム開発

Communication System

通信システム開発

- モバイル関連
- ホームエレクトロニクス
- カーエレクトロニクス
- 情報機器・医療機器
- デジタル無線
- その他

Business System

情報システム開発

- 生保・損保
- 証券
- 共済
- 官公庁
- 物流
- その他

Network Solution

ネットワークソリューション

- システムマネジメントサービス
- ネットワークソリューションサービス
- インターネットサービス
- セキュリティサービス

Data Entry

データエントリー

- データエントリー業務
- イメージエントリー業務
- プロダクト販売
- 人材派遣業務
- その他

情報処理サービス



1. 2009年3月期第2四半期業績について

- 第2四半期累計売上高では堅調(対前年同期比+1.8%)
 - ▶ 売上高は厳しい環境下であるが、新規顧客開拓や生損保、カーエレクトロニクス関連のシステム開発で伸長する。
- 利益面では減益(営業利益で同△21.1%)
 - ▶ 株式市場の悪化で、適格退職年金の運用損失が発生(売上原価及び販管費に影響)
 - ▶ 新人採用増等に伴う経費の増加
- 付加価値ビジネスの推進
 - ▶ ニッコム社^{*}への出資(取得株数2千株,出資比率18.2%,取得金額45百万円 平成20年7月)
 - ▶ プラットホームを利用したアプリケーション開発やUIビジネス事業の推進
- ETロボコン2008チャンピオンシップ大会へ
 - ▶ 関東大会(9月)を突破しNIDチーム出場
11月19日(水)パシフィコ横浜
主催:社団法人 組込みシステム技術協会(JASA)

※ニッコム社概要

社名	株式会社ニッコム
設立	2007年7月5日
本社	東京都港区
代表者	代表取締役社長兼CEO 小島 秀登
事業内容	ITコンサルティング事業、製品開発、カスタマイズ事業等

2009年3月期第2四半期決算の概況(連結)



(単位:百万円)

	2008年3月期 第2Q累計 (4~9月実績)	2009年3月期 第2Q累計 (4~9月実績)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	7,561	7,698	+137	+1.8%
売上総利益	1,419	1,360	△59	△4.2%
営業利益	556	438	△118	△21.1%
経常利益	583	447	△136	△23.3%
四半期純利益	327	244	△83	△25.3%
総資産額	10,065	9,453	△612	△6.1%
株主資本	5,592	5,130	△462	△8.3%
1株当り四半期純利益	76.44円	64.70円	---	---
1株当り株主資本	1,321.76円	1,355.17円	---	---

対前年同期増減の 主な内容

<売上高>

- システム開発 + 約1億円
- 情報処理サービス + 約3千4百万円
- 通信システム開発で苦戦
- 情報システム開発は堅調

<経常利益>

- 適格退職年金の運用損失
- 新人採用増に伴う経費増

<総資産額>

- 現預金 △5億8千万円

<自己資本>

- 自社株買 △9億3千万円
- 当期利益 +5億1千万円

注)すべて百万円未満は切り捨てて表示しています。

連結子会社の状況



(単位:百万円)

2009年3月期 第2四半期累計実績	当 社	連 結 子 会 社			(連結 消去等)	連 結
		NID・IS	NID東北	NID・IE		
売上高	5,829	1,544	409	1,061	(1,145)	7,698
(内グループ売上)	(0)	(541)	(32)	(572)		
売上総利益	993	218	55	94	(0)	1,360
営業利益	278	88	23	48	(1)	438
経常利益	288	88	23	48	(0)	447
四半期純利益	151	52	14	28	(△1)	244

- ・NID(当社)とNID東北社は経常利益で、前年同期比でマイナスとなる。
- ・NID・IS社は、前年同期比で売上、利益ともに堅調であった。
- ・NID・IE社は、ほぼ横ばいとなりました。

貸借対照表・キャッシュフロー(連結)



(単位:百万円)

連結貸借対照表	2008年3月期 第2Q	2009年3月期 第2Q	対前年同期比 増減額	増減の主な内容
流動資産合計	7,395	6,724	△671	現預金の減
固定資産合計	2,666	2,728	+59	
資産合計	10,065	9,453	△612	
負債合計	4,472	4,323	△149	未払金等の減
純資産合計	5,592	5,130	△462	2008/3 自己株取得
負債純資産合計	10,065	9,453	△612	

キャッシュ・フローの状況	2009年3月期 第2Q累計 (4~9月実績)	増減の主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	320	税前利益440百万円、売上債権減312百万円 法人税支払額349百万円、たな卸資産増170百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△102	投資有価証券取得45百万円、固定資産取得57百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△170	配当金支払額170百万円
現金及び現金同等物期末残高	3,493	第2四半期決算短信 3ページ及び8~9ページご参照

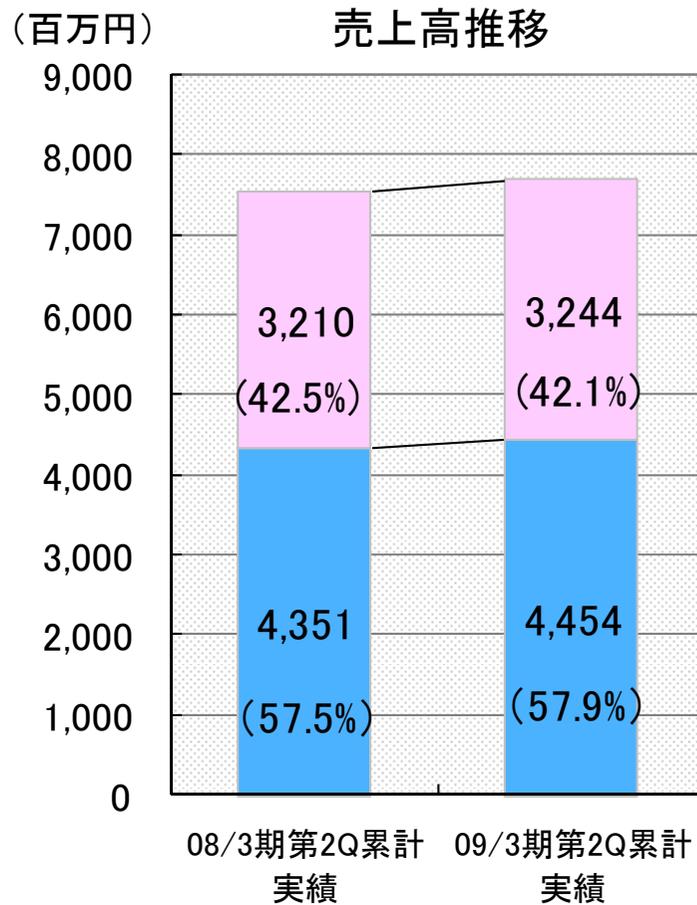
セグメント別売上・営業利益実績(連結)



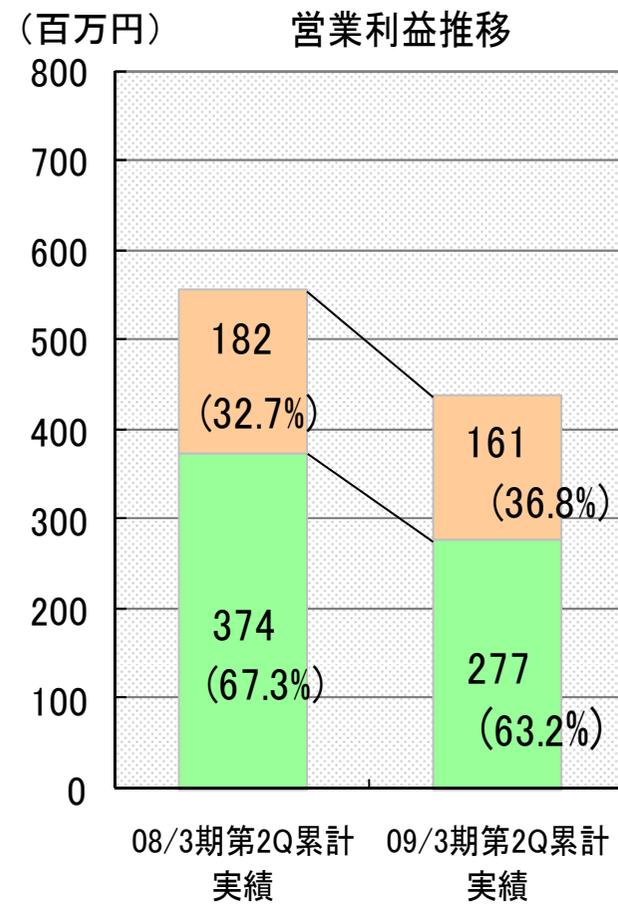
(単位:百万円)

		2008年3月期 第2Q累計 (4~9月実績)	構成比	2009年3月期 第2Q累計 (4~9月実績)	構成比	前年同期比
売上高		7,561	100.0%	7,698	100.0%	+1.8%
内 訳	システム開発事業	4,351	57.5%	4,454	57.9%	+2.4%
	情報処理サービス事業	3,210	42.5%	3,244	42.1%	+1.1%
営業利益		556	100.0%	438	100.0%	△21.2%
内 訳	システム開発事業	374	67.3%	277	63.2%	△25.9%
	情報処理サービス事業	182	32.7%	161	36.8%	△11.5%

セグメント別売上高・営業利益実績推移



■ システム開発事業 ■ 情報処理サービス事業

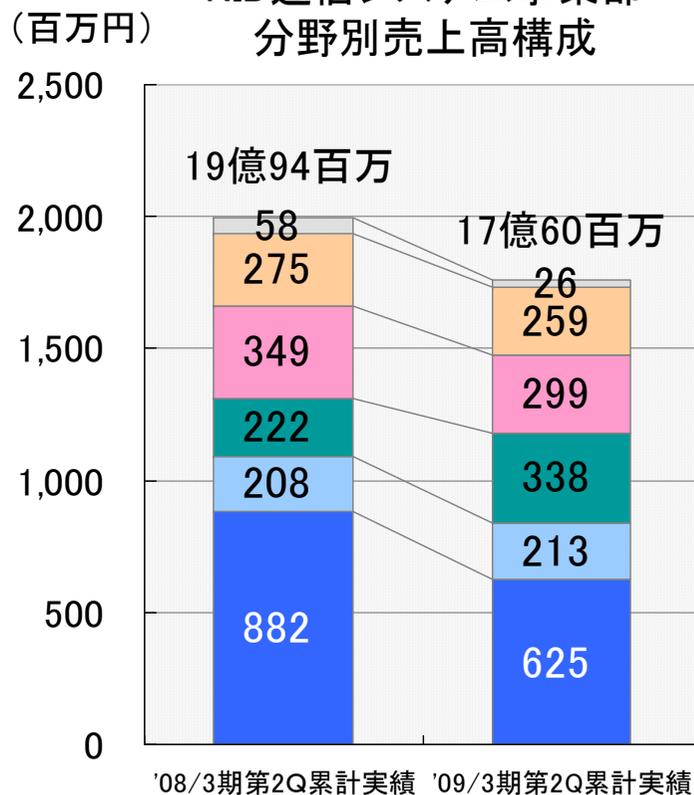


■ システム開発事業 ■ 情報処理サービス事業

事業部別分野別及び業種別売上高①

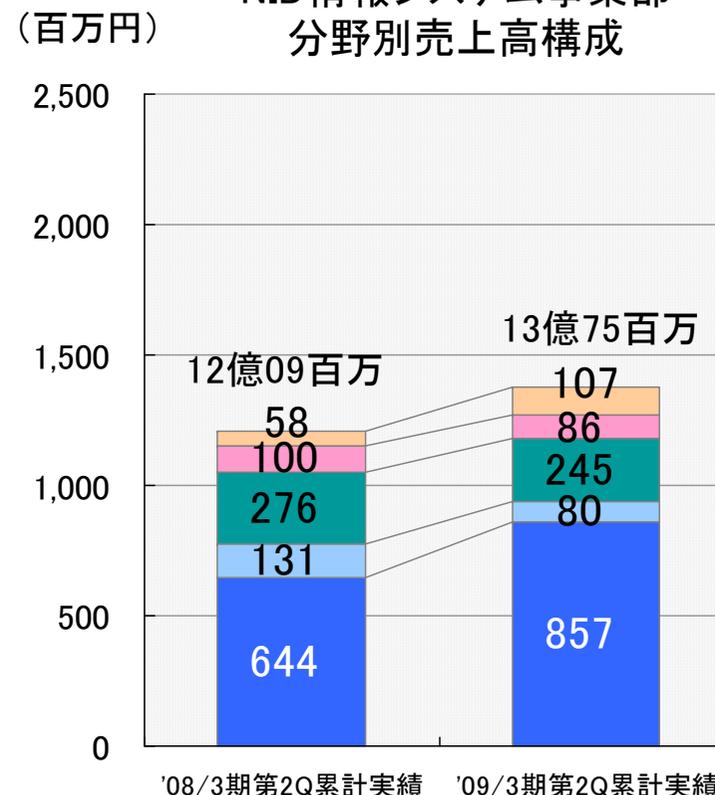


NID通信システム事業部
分野別売上高構成



- その他通信システム
- デジタル無線
- 情報機器・医療機器
- カーエレクトロニクス
- ホームエレクトロニクス
- モバイル関連

NID情報システム事業部
分野別売上高構成

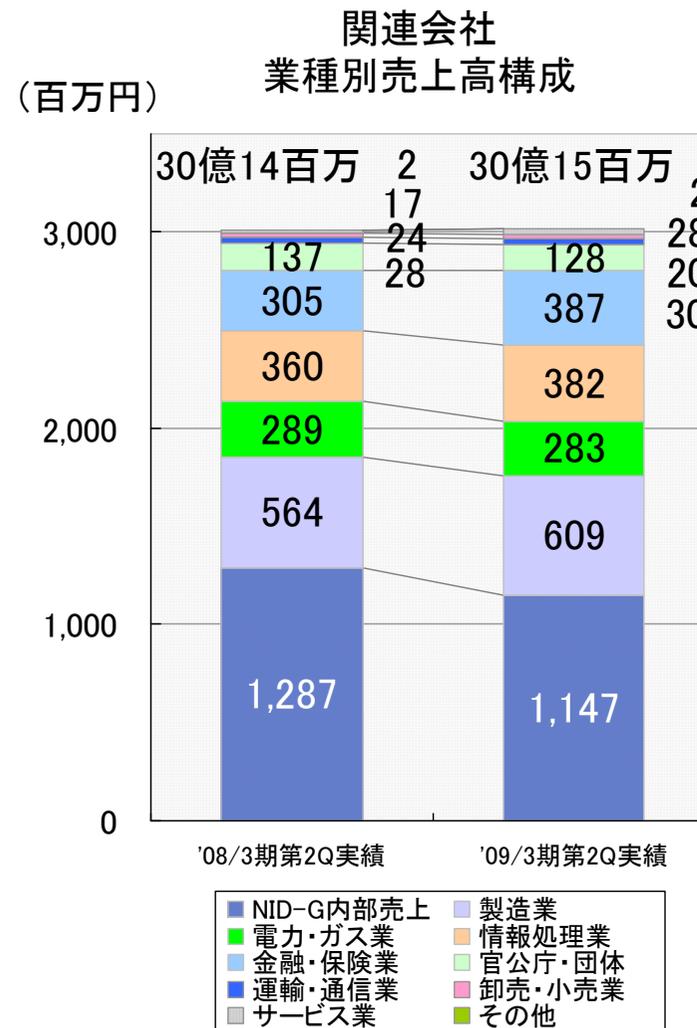
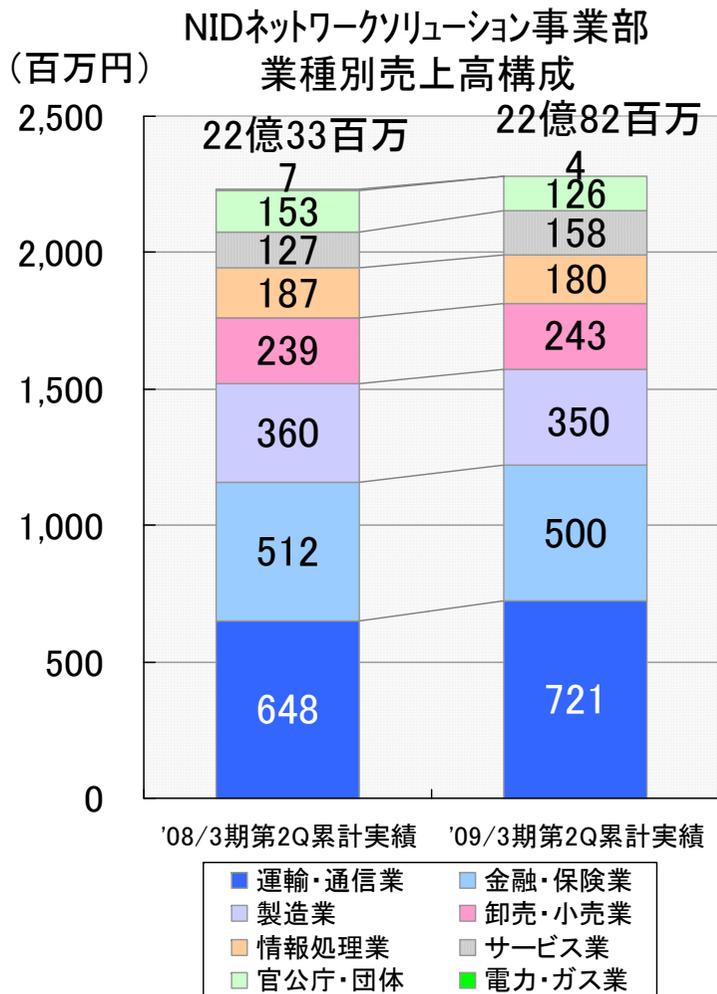


- その他
- 官公庁
- 流通・製造
- 証券
- 生保・損保

モバイル、情報・医療機器、デジタル無線で苦戦、
カーエレクトロニクス、ホームエレクトロニクスでは堅調(対前年同期比△11.7%減)

主要既存顧客の生損保、共済システム開発等で堅調、
市場環境の悪化で証券分野で苦戦(対前年同期比+13.7%増)

事業部別分野別及び業種別売上高②



運輸通信業、サービス業向けで付加価値の高いオープン系ネットワーク管理が伸長し堅調(対前年同期比+2.2%増)



2. 2009年3月期通期連結業績予想

2009年3月期通期連結業績予想



(単位:百万円)

	2008年3月期 (実績)	2009/3月期 (当初予想)	2009/3月期 (修正予想)	前回予想 増減額	前回 予想比	前年 同期比
売上高	15,696	16,200	16,000	△200	△1.2%	+1.9%
売上総利益	3,107	3,243	2,952	△291	△9.0%	△5.0%
営業利益	1,335	1,358	1,108	△250	△18.4%	△17.0%
経常利益	1,371	1,385	1,130	△255	△18.4%	△17.6%
当期純利益	769	817	624	△193	△23.6%	△18.9%
1株当り当期純利益	181.76円	215.81円	164.84円	△50.97円		

下半期についても株式市場の回復は当面難しいものと予想

・適格退職年金の運用損失は継続

・顧客による開発規模の縮小や延期を見込まれ、開発系の業務収益が減少することが懸念される。

セグメント別売上・営業利益予想(対前年)



(単位:百万円)

		2008年3月期 実績	2009年3月期 当初予想	2009年3月期 修正予想	前年同期比
売上高		15,696	16,200	16,000	+1.9%
内訳	システム開発事業	9,161	9,650	9,352	+2.1%
	情報処理サービス事業	6,535	6,550	6,648	+1.7%
営業利益		1,335	1,358	1,108	△17.0%
内訳	システム開発事業	951	968	728	△23.4%
	情報処理サービス事業	384	390	380	△1.0%



3. 2009年3月期下期の重点施策

■ 通信システム開発

▶ カーエレクトロニクス分野

- ・パワートレイン系、マルチメディア系(プラットフォーム)
- ・トップビューカメラECU開発、カーナビツール開発

▶ 携帯電話関連 プロトコル、基地局開発、海外向けスマートフォン、マルチメディア系アプリ開発

LTE^{※1}(ロング・ターム・エボリューション)、WiMAX^{※2}(ワイマックス)対応

▶ アンドロイド(Android)試行開発

■ 情報システム開発

▶ 生損保・共済業務の拡大と保険業務SEの育成

■ ネットワークソリューション

▶ 基盤系SEの増強;顧客ITIL^{※3}導入プロジェクト注力

■ 内部統制対応

▶ 業務プロセス統制・全社的統制の実践と内部統制報告書作成

※1 LTE(ロングタームエボリューション):新たな携帯電話の通信規格、2010年頃から世界中でのサービス開始が見込まれており第3.9世代携帯電話(3.9G)とも呼ばれる。

※2 WiMAX(ワイマックス):高速で長い距離を伝送できる無線通信技術の規格の一つ。最大75Mビット/秒の伝送速度、最長50kmまでの伝送距離

※3 ITIL(IT Infrastructure Library): イギリス政府が策定した、ITマネジメントに関する体系的なガイドライン。



4. 事業戦略

■ 付加価値ビジネスの体制強化

▶ プロダクト開発 –グローバル・プラットホームへの搭載–

- ・iPhone向けアプリケーション開発 (AppへGPS-R^{※1}(ナビゲーション)登録)
- ・アンドロイド(Android)へ展開
- ・既存プロダクト製品の拡販



特定保健指導支援ソフトウェア
「MiEL(ミエル)」

MoPulse

モバイルDBアクセスソリューション
「MoPulse(モパルス)」

E-stas

携帯端末自働評価システム
「E-stas(エスタス)」



RFIDによる資産管理
台帳・連携システム
「RF棚卸くん」



知識継承型マニュアル
作成ツール「Dojo」

▶ パートナーとの協業ビジネス

- ・ニッコム社製品のGUI^{※2}統合シミュレータ^{※3}「Maestro(マエストロ)」を利用した開発環境の向上と効率化を目指す。
- ・携帯電話関連の[※]プロダクトをアクロディア社と共同開発中

※1 GPS-R: NIDIS社が開発したナビゲーションツールで場所で作動する新しいタイプのリマインダーです。

※2 GUI: Graphics User Interface

※3 Maestro(マエストロ): フィンランドの技術研究センターとノキアをはじめとする産業界が共同開発したシミュレーションとモデリング、開発環境が統合化された革新的なソリューション。
Suomen 3C Oy(フィンランド 株式会社スリーシー)よりニッコム社が買収したものです。

※アクロディア社概要

社名	株式会社アクロディア
設立	2004年7月12日
本社	東京都目黒区
市場	東証マザーズ(証券コード:3823)
代表者	代表取締役社長兼CEO 堤 純也
事業内容	ミドルウェア事業及びメディア事業

- 得意分野にフォーカスして専門技術者集団を目指す。
 - 通信システム開発 ➡ エンベデッド(組込み)技術者集団
 - 情報システム開発 ➡ 保険業務の専門SE集団
 - ネットワークソリューション ➡ 基盤系SE集団
 - 技術の見える化
 - ・ITSS^{※1}、ETSS^{※2}に基づく専門技術者の育成
 - ・技術者情報DBシステムの運用

※1 ITSS(IT Skill Standard):経済産業省が定めた個人のIT関連能力を職種や専門分野ごとに明確化・体系化した指標

※2 ETSS(Embedded Technology Skill Standard):経済産業省が定めた組込みソフトウェアの開発スキルを測定する指標

得意技へのこだわり

高い専門性を追求する

品質へのこだわり

常に技術に磨きをかける

基本へのこだわり

事業に軌軸をもつ

技術力(企業価値) = 品質(顧客満足度)

専門店経営でユーザー価値を満足させる
ベスト・パートナーに！！

■ 株主還元策

- 配当 各期の業績、将来の事業展開、配当性向等を勘案し、
安定した配当を継続していきます。

2008年3月期(第41期)配当金 **45** 円

■ 目標とする経営指標

- 売上高経常利益率 **10%**
- 株主資本当期純利益率(ROE) **15%**



<http://www.nid.co.jp>

用語

携帯電話自動評価システム	評価指示(シナリオ)に従い、携帯電話のボタンを自動的に操作し、その結果データを自動収集、予め用意しておいた期待画像などと比較し、自動的に成否の判定を実現するもの。
プロトコルスタック	ネットワーク上で、ある機能を実現するために必要なプロトコル(通信手順)を選び、階層状に積み上げたソフトウェア群。
エンベデッド(Embedded)	デジタルTV、DVD(Digital Versatile Disk)、PDP(Plasma Display Panel)などの情報家電から携帯電話、携帯端末(PDA: Personal Digital Assistance)、車載システムなどに組み込むソフトウェアの総称。
情報家電	情報通信機能を組み込み、高機能化・ネットワーク化した家電製品のこと。デジタルTVなどのAV機器や、家庭用ゲーム機などをはじめ、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機といった白物家電も情報家電への進化が期待される。
ユビキタス(ubiquitous)	ユビキタスの語源はラテン語で、いたるところに存在する(遍在)という意味。インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできる環境を指し、ユビキタスが普及すると、場所にとられない働き方や娯楽が実現出来るようになる。「ユビキタス・コンピューティング」、「ユビキタス・ネットワーク社会」のようにも使われることもある。ユビキタス・コンピューティングは、メインフレーム(複数で一台を使用)、PC(一人一台)、に続く、一人が複数のコンピュータを使う第3世代を示したもので、マーク・ワイザー氏が提唱した。
組込みLinux	サーバOSとして注目されているLinuxですが、組込み機器におけるOSとしてもLinuxが急速に採用されてきている。他のOSに比べ、低い性能のコンピュータでも軽快に動作し、ネットワーク機能やセキュリティに優れている。
3GPP(3rd Generation Partnership Project)	第3世代(3G)移動体通信システムの標準化プロジェクト。また、同プロジェクトによる移動体通信システムの標準規格。
Bluetooth	Ericsson社、IBM社、Intel社、Nokia社、東芝の5社が中心となって提唱している携帯情報機器向けの無線通信技術。
WiMAX (IEEE802. 16a)	2003年1月にIEEE(米国電気電子学会)で承認された、固定無線通信の標準規格。IEEE802.16規格は10~66GHzの周波数帯を使用していたが、802.16a規格では2~11GHzを利用するよう改められている。通信速度や最大距離は変わらず、1台のアンテナで半径約50kmをカバーし、最大で70Mbpsの通信が可能。
デバイスドライバ(device driver)	周辺機器を動作させるためのソフトウェア。OSが周辺機器を制御するための橋渡しを行なう。
テレマティクス	通信(テレコミュニケーション)と情報処理(インフォマティクス)を組み合わせた造語で、自動車向けの次世代情報提供サービスをいう。主なテレマティクスサービスとしては、トヨタ【G-BOOK】、日産【カーウイングス】、ホンダ【インターナビ・プレミアムクラブ】などがある。
Symbian OS	エリクソン社、モトローラ社、ノキア社、松下電器産業などの携帯電話メーカーが出資する英シンビアン社が提唱している携帯端末向けのOS。
CMM(Capability Maturity Model)	ソフトウェアの開発能力を客観的に示す品質管理基準のこと。
ITS (Intelligent Transport System)	高度道路交通システム。最先端の情報通信技術を利用して、ナビゲーションシステムの高度化、将来の自動運転を目標とした安全運転の支援、有料道路でのノンストップ自動料金支払システム等により交通の安全や効率性の向上を実現。
NGN(next Generation Network)	電話や映像配信等多様なサービスを次世代通信インフラとしてIP網にて提供する次世代ネットワーク。
3. 9G	100Mbpsでのデータ伝送が可能な移動通信システム。Super3Gとも言われ、3. 5Gの先にある物を言う。